

防潮堤の説明会

29日に大島地区の防潮堤説明会がありました。各担当者が順番に流れるように、さも計画が決定事項の様に説明をされました。ですが、肝心の何時何処で誰がどんな権限と法令を持って決めたのか、そして予算額はいくらで国会決議があったのか等々まったく話に出ませんでした。その点を質問したのですが明解な答えはないのです。

これだけの事業に法的根拠も示さず、予算額も明示せず、住民の意向意見も聞かず、質問を封じ込めるがごとくに、ただ図面と工事予定だけが一方的に説明発表されました。

その様子は住民に説明すると云うより「お役所の縄張り区分発表会」とも云うべきものでした。大島全体の復興計画ではなく、各省庁の出先機関が島を細分化し、さらにひとつの浜を分割し工事予定を決めています。住民の意見要望を聞いて計画を立てるべきなのに、各省庁の利権を守り拡張することが第一で、島

民の生活は考えていないようです。

今必要なのは防潮堤ではなく浜の修復と住宅です。被災して一年半に為ろうとしているのに、まったく進んでいません。船を着岸し荷揚げの場所を確保する工事が最初で、防潮堤計画は10年後でもいいでしょう。被災者の高台移転や公営住宅の計画ははまだ白紙状態なのに、なぜ今必要のない防潮堤の計画だけが進んでいるのですか。

防潮堤を作るのは生命と財産を守る為と説明しますが、今回の震災で田老町の例でも分かるようにコンクリートの壁で命も財産も守れません。市長も「守れない」と言っているのに、それが証明されたのに作ることで何が決定しており、これは各省庁の利権の為としか理解できません。

どうして関係のない中央の官僚に我々の生活環境を破壊されなければならぬのか、どうして市も県もそれに従うのか、役人と政治家は保身と利権の為にしか働かないのですか。

大島は海が財産です。

大島の多くの人は漁業と観光に生きてきました。漁に出て魚を獲り、磯に出てアワビ、ウニ、海藻を採り、それを生活の糧にして来ました。自然の海と緑と美味しい海の幸を求めて観光客が来ます。

防潮堤は海岸を破壊します。自然の雨水が海に入らないと海藻が育たずウニもアワビもいなくなり、磯が無くなると産卵場所も無くなり魚が棲めません。島民は自然の中で心豊かな暮らしが出来なくなります。

風光明媚なみどりの真珠が壊されて観光客が来なくなれば、旅館民宿は廃業です。

国、県、市をあげて防潮堤を作ろうとしています。それが、それは島民の生命財産を奪うことです。予算があるなら役人の利権確保の為ではなく、島民の生活向上の為に使うて下さい。「立派な防潮堤は出来たけど、住民は仮設住宅で苦しんでいる」と云うことに為らないようにお願いしたい。

大島中学校仮設

熊谷雅裕